

## 1 分析結果

### (1) 保護者アンケート

#### ア 本校について

- 学校の経営方針に沿って一部の質問項目の見直しを行った。質問項目変更に伴い単純に前年度との比較はできないが、保護者の評価結果において全項目とも「ア よくあてはまる」+「イ ややあてはまる」が90%を越えており、学校が理解されている結果となったものの、前年度と比較できる項目についてみると、「ア よくあてはまる」の回答率が多く項目で前年度を下回る結果となった。
- 本校では保護者と同じ視点での教員アンケートを実施していないため、保護者との意見や認識のずれを計ることは出来ないが、次年度以降については意見のずれや経年変化を見られるアンケートへの修正が必要と思われる。
- 経営目標の「2 安心・安全な教育環境」と「3 関係機関との連携」の各質問項目に対する「ア よくあてはまる」の回答数が他の質問項目に対して若干低くなっていることについては、保護者の目にとまりにくかったり、連携会議のように保護者が参加しなかったりする内容のため、答えにくかったと思われる。  
なお、「2 安心・安全な教育環境」については、「いじめへの対応」も含めた内容として質問項目を設定したが、結果が見えにくいものとなった。
- 経営方針にも挙げられていた外部への情報発信（ホームページの充実）については、ぜひとも80%を越える回答となるよう、次年度以降も引き続き力を注ぐ必要がある。「開かれた学校作り」、「地域の中の学校」を目指す観点からも情報発信は重要であり、教員の意識を高めていく必要がある。

#### イ おおるり分教室について

- 学習についての満足度は高い結果となった。病状に配慮した授業が受け入れられている事が伺える。また、病棟との連携についても理解していただいている結果となった。
- 地元校との復学に向けた連携について、昨年度よりは改善したものの、「ア よくあてはまる」との回答が6割に留まったことから、今後も保護者に丁寧に復学に向けた説明と、不安解消に関する相談を実施していく必要があると考えられる。  
また、「満足度」についても同様の結果が出ており、保護者のニーズを探り、どのような状況において保護者が満足感を得るのかを見定めていく必要がある。

### (2) 自己評価（教員）

- 各学部、各分掌部ごとに、今年度の校務運営計画の中から一項目を抽出しての評価ではあるが、ほぼ「A 達成できた」+「B おおむね達成できた」となり、目標を達成されているという結果となった。
- 渉外部と支援部については、所属教員以外からの意見が非常に少なく、数値以上に教員間であっても業務内容が見えにくいという結果となった。この結果については、渉外部についてはPTAや同窓会、外部団体が業務内容であること、支援部については早期教育相談や体験学習等を業務内容としているため、直接児童生徒への指導と関わらないことから業務が周囲に見えにくいことに繋がっていると考えられる。
- 「C 改善が必要」との評価があった学習指導部については、教科等部会の運営についての意見も寄せられており、改善が求められている結果となった。

### (3) 自己評価（学部、分掌部）

- 5学部7分掌部全体の総評としては、「A 達成できた」が1学部1分掌部のみとなった。残りが全て「B 概ね達成できた」との評価であり、「C 改善が必要」との評価はなかった。このことから、概ね本年度の学校経営方針は達成されたと考えられる。
- 全体として、それぞれの業務についての情報共有や事前準備等はできたとの評価であるが、取組内容の広がりには至らないとの意見が多く寄せられている。
- ICTについては、以前から行われていた遠隔授業が本格的に開始されるなどの顕著な取組が見られるものの、特定の教員や授業での実施というところに課題が残っている。実際に自分をつなぐ等の研修を行い、ICT機器を十分に活用できる環境整備が必要である。
- 安心・安全については、避難訓練の充実が図られ、児童生徒教員の防災意識の向上と、「自分の身を自分で守る」ために必要なスキルを高めていくことが重要である。

## 2 改善策

- アンケートの質問項目については、経営方針に沿った内容への見直しは行いつつ、経年変化を捉えたり、保護者と教員の意識のずれを計ったりできるものに修正する必要がある。
- 前年度「ア よく当てはまる」の結果を下回った項目については、今年度の結果を分析し、各教員がさらなる取組とその理解を深めるための努力を続けていく必要がある。また、保護者の目にとまりにくい取組についても、学校が発行する各種便りやホームページで情報発信していくことで理解を深めていく。
- 「いじめへの取組」については、教員及び保護者とも意識や理解を深めるためにも年度当初の説明だけでなく、具体的に活動していることを評価できるよう質問項目に文言として入れるべきと考えられることから、次年度検討を進める。
- 教員の教育活動の展開については、自信を持って「達成できた」と回答できるようにするため、主事・主任・部長がリーダーシップを発揮して所属教員の達成感を得るための工夫を行っていく。また、所属教員だけが活動し苦労するのではなく、相互理解のもと学校組織を活用して事業を実践することが重要である。
- アンケートの結果と分析等から、次年度の更なる取組の中にICT機器の活用（遠隔授業、ホームページの充実等）、避難訓練の充実を通じた安心・安全の向上、教科等部会を活用した学習指導の充実があげられる。